

専攻科看護学専攻 後期
専門基礎科目／専門強化科目

1. 看護心理学
2. 感染看護
3. 看護ケアに生かす情報通信技術
4. 看護管理論
5. 臨地実践研修
6. 看護実践研究

専攻科看護学専攻

科目名:	看護心理学	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択			
		3	後期	専門基礎科目	講義	選択			
担当教員:	竹ノ山圭二郎								
授業科目の学習教育目標の概要									
心身の発達及び学習の過程における基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた指導方法や看護上必要な心理検査の基礎を学ぶ。									
授 業 計 画		準備学修(予習・復習等) 学習内容				学修に必要な時間(分)			
①クエスト型授業」の進め方、および教育心理学の領域について		【予習復習】授業への動機づけとガイダンス				30			
②社会性の発達		【予習復習】エリクソンのライフサイクル論				60			
③認知の発達		【予習復習】ピアジェの発生的認識論				60			
④学習理論 I		【予習復習】条件づけ理論				60			
⑤学習理論 II		【予習復習】社会的学習理論				60			
⑥知能と知能検査		【予習復習】知能に関する理論および検査の概略				60			
⑦主体的学習を支える動機づけの理論		【予習復習】動機づけ理論				60			
⑧教育評価の考え方		【予習復習】教育評価の理論				60			
⑨学習の支援者としての教師の役割		【予習復習】教師論				60			
⑩授業のデザインの基本		【予習復習】授業デザインの基本的考え方				60			
⑪主体的学びを促進する教授法		【予習復習】アクティブラーニングの考え方				60			
⑫クラスマネジメントと配慮を要する学習者への支援		【予習復習】学習者支援の基本的考え方				60			
⑬【演習】指導案の作成		【予習復習】模擬授業の指導案を作成する				60			
⑭【演習】ミニ模擬授業 I: 学校教育における授業の実践		【予習復習】模擬授業を実践する				60			
⑮【演習】ミニ模擬授業 II: 生涯学習における講座の実践		【予習復習】模擬授業を実践する				60			
⑯知能検査1: ビネー式知能検査		【予習復習】ビネー式知能検査の概略				60			
⑰知能検査2: ウェクスラー式知能検査		【予習復習】ウェクスラー式知能検査の概略				60			
⑱性格検査1: 質問紙法検査		【予習復習】質問紙法性格検査の概略				60			
⑲性格検査2: 投影法検査		【予習復習】投影法性格検査の概略				60			
⑳性格検査3: 作業検査法検査		【予習復習】作業検査法性格検査の概略				60			
㉑乳幼児の発達に関する検査		【予習復習】発達検査の概略				60			
㉒知覚・感覚に関する検査		【予習復習】知覚検査の概略				60			
㉓記憶に関する検査		【予習復習】記憶検査の概略				60			
㉔高次脳機能検査		【予習復習】高次脳機能検査の概略				60			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	60 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	40 %
使用テキスト: 適宜、資料を配布する。				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 「主体的・対話的で深い学び」を実践的に修得するために、クエスト型授業によるアクティブ・ラーニングで学びます。									

専攻科看護学専攻

科目名:	感染看護	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択			
		2	後期	専門基礎科目	講義	選択			
担当教員:	大橋 達子、亀山、野村								
授業科目の学習教育目標の概要:									
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)をはじめ、昨今の様々な感染症に対する知識を習得し、対象者の苦痛を最小限に緩和する看護実践を検討する。									
授業計画		学習内容				担当教員			
① オリエンテーション、感染看護とは		授業の進め方、感染看護の歴史と感染の動向				亀山			
② 感染症と感染経路		感染症と感染経路、滅菌と消毒、予防接種				亀山			
③ 感染症の診断・治療、コンサルテーション		感染症の検査と診断・治療、コンサルテーション、連携等				亀山			
④ 感染症の現状と対策		新型コロナウイルス、結核、その他感染症等				亀山			
⑤ 感染症の現状と対策		地域における感染症対策				野村			
⑥ 微生物の基本的知識		MRSA、ESBL、菌血症等				亀山			
⑦ 感染症サーベイランス		感染症サーベイランス				亀山			
⑧ 感染症患者の看護		新型コロナウイルス感染症、結核、HIV、流行性ウイルス疾患等				亀山			
⑨ 感染看護の技術		CVなどの消毒、血液培養採取、針刺し事故、療養環境整等				亀山			
⑩ 感染予防や感染後の苦痛緩和に関する技術		対象者や家族の不安を和らげる看護等				亀山			
⑪ 病院や施設、訪問系・通所系サービス等での感染事例についての現状調査		勤務先の感染事例の現状把握				大橋			
⑫ 病院や施設、訪問系・通所系サービス等での感染事例についての現状調査		勤務先の感染事例の現状把握				大橋			
⑬ ⑪⑫についてのまとめと分析、発表準備		勤務先の感染事例の現状のまとめ				大橋			
⑭ ⑫についての発表・討議		勤務先の感染事例の現状発表				大橋・亀山			
⑮ 災害における感染症対策		災害に対する感染症の現状と対策				亀山			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	60 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	%
使用テキスト: 適宜、資料を配布する。				その他参考文献など: 感染に関する研究論文					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 主体的・積極的に調査を行うなど前向きな姿勢で、授業に参加してください。									

専攻科看護学専攻

科目名:	看護ケアに生かす情報通信技術	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択			
		1	後期	専門基礎科目	講義	選択			
担当教員:	一ノ瀬 伊通子								
授業科目の学習教育目標の概要:									
看護ケアに生かす情報通信技術は、医療現場における効率性、精度、安全性を向上させるために重要な役割を果たす。本授業では、患者の健康管理や医療チームの連携を向上させ、質の高いケアを提供するためのさまざまな情報通信技術について学ぶ。									
授業計画		学習内容				担当教員			
①情報通信技術の種類		情報通信技術の種類と概要を理解する。				一ノ瀬			
②電子健康管理(EHR)		患者の医療情報を電子的に管理することによる、看護ケアの質向上について理解する。				一ノ瀬			
③モバイルヘルスアプリ		患者がモバイルアプリを使用して健康データを記録し、看護師と情報共有することで、患者の健康状態を管理できることを学ぶ。				一ノ瀬			
④テレヘルス		ビデオ会議やオンラインチャットを通じて、離れている患者と看護師がコミュニケーションを取れることを学ぶ。				一ノ瀬			
⑤バイタルサインモニタリング		バイタルサインを常時モニタリングし、患者の状態の変化を早期に検知して介入できることを理解する。				一ノ瀬			
⑥RFID (Radio Frequency Identification)		RFID技術を使用して、患者や医療機器の位置を追跡・監視し、効率的なケアを提供できることを学ぶ。				一ノ瀬			
⑦教育・トレーニング用技術		看護学生や新任の看護師に、シミュレーションや仮想現実(VR)技術を活用したトレーニングが有効であることを理解する。				一ノ瀬			
⑧看護決定支援システム		患者の診断や治療計画を立案する際に利用して情報を提供する支援システムについて学ぶ。				一ノ瀬			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	50 %
使用テキスト:		その他参考文献など: Nursing Informatics and the Foundation of Knowledge, Dee McGonigle, Kathleen Mastrian							
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									

専攻科看護学専攻

科目名:	看護管理論	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択			
		2	後期	専門強化科目	講義	選択			
担当教員:	山元 恵子・高田誠(ゲストスピーカー)								
授業科目の学習教育目標の概要									
組織の一員として、多職種と協働しながら質の高い看護をマネジメントするために、適切な医療・看護を提供するための諸制度、人材育成、キャリア開発、組織間の調整、安全管理、経済的諸問題の対応や資源の活用について。									
授業形態	事前課題について自分の考えをまとめ、プレゼンし討議しながら看護管理の知識を深めていく、必要に応じ管理体験する機会を設ける								
授 業 計 画		学 習 内 容				担 当 教 員			
①ガイダンス:授業ガイド・目的・進め方等について		看護管理論を進めるうえでの用語の定義 看護管理とは何かについて考える				山元			
③④ 仕事力:4つのコアスキルについて		コアスキルについて自己学習・発表・ディスカッション				山元			
⑤・⑥コミュニケーション力・コラボレーション力		コアスキルコミュニケーションとは何か 自己学習・発表・ディスカッション				山元			
⑦⑧論理的思考力・リーダーシップ		コアスキル論理的思考力情報整理について自己学習・発表・ディスカッション				山元			
⑨⑩3つのインターパーソナルスキル		パーソナルスキルについて自己学習・発表・ディスカッション				山元			
⑪⑫3つのパーソナルスキル		パーソナルスキルについて自己学習・発表・ディスカッション				山元			
⑬⑭自己の看護管理論		仕事力と看護管理について自己学習・発表・ディスカッション				山元			
⑮⑯一流の看護師を目指すためのワークショップ						ゲストスピーカー 高田誠			
⑰ 試験もしくは論文 自己の管理論を述べる						山元			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	50 %	論文	30 %	発表:	20 %	実技試験:	%	その他:	%
使用テキスト: 適宜、資料を配布する。									
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 看護管理(マネジメント)は、管理者になってから学ぶことではなく、日常の業務の分担や、夜勤チームや多職種との協働など、臨床では、あらゆる場面で必要とされていることを学んでください。マネジメント力は社会人基礎能力として大切なスキルの一つです、主体的に積極的に取り組み、現場の管理者のマネジメントスキルからも学びを深められることを期待しています。									

専攻科看護学専攻

科目名: NO11	臨地実践研修(インターン)	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択			
		10	通年	専門強化科目	実習	必修			
担当教員	岩城 大橋 小倉 坂東								
授業科目の学習教育目標の概要									
看護師として日々の看護体験を理論とつなげエビデンスを明確にする。 題に主体的で科学的な姿勢で向き合い、看護実践から得た知識やアセスメントを報告書に記録する。(50枚) 時代時代のニーズに応えることができる高い判断力、確実な技術を持った実践力を高める。 実践研究につなげる。						課 看護			
授業計画		学習内容				担当教員			
オリエンテーション 担当教員決定		1年の計画と進め方、看護実践の評価(レポート50枚)のオリエンテーション				全教員			
前期実践研修8h/30day。 1time/1week学内にて技術演習 一人一人技術演習を担当し技術の目的、注意事項、病態生理等の資料を作成し、プレゼンテーションを行う。		看護計画立案、日々の活動から管理を学び、目標・課題につなげ成長をレポートにする。 看護実践研究への課題を明確にする。				全教員			
中間カンファレンス		それぞれの学びを参考に、自分の活動を振り返り、後期につなげる。				全教員			
後期実践研修8h/24day		看護計画の評価を実施し、実践研修での成長に関してを前期・後期合わせて50枚のレポートを作成。				全教員			
看護実践研修の最終カンファレンス		学修の評価、成長の報告、意見交換。				全教員			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	10 %
使用テキスト： 適宜、資料を配布する。		その他参考文献など：							
授講上の留意点（担当者からのメッセージ）： 日々の実践を振り返り、グループで意見交換、看護に対するリサーチクエスチョン、文献検索、結果へのアセスメント、考察、まとめのなど一連の看護過程を理解していく。 また、担当教員との面談を行い、目標設定等計画的に進めていく力をもち学修活動を行ってほしい。									

専攻科看護学専攻

科目名:	看護実践研究	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択
		5	通年	専門強化科目	演習	必修
担当教員:	長谷川 岩城 坂東 今川 小倉 大橋					
授業科目の学習教育目標の概要						
看護現場におけるインターンシップで、研究テーマを見出し、研究計画書の作成、倫理的配慮、データ収集・分析といった一連の研究プロセスを学び、論文にまとめ発表する。						
授 業 計 画						
授 業 計 画		学習内容				担当教員
① オリエンテーション 授業の進方について		看護研究を遂行する上での約束事				長谷川
②～④ 看護研究の進め方・研究テーマと目的		実践研究テーマ・目的について検討				長谷川
⑤～⑦ 研究計画書作成の手順		目的、分析方法、文献検索、論文作成などの具体的方法について講義				長谷川
⑧～⑩ 研究計画書作成		研究計画書作成の実施と点検				長谷川
⑪～⑫ 研究計画書作成		研究計画書修正および完成（最終確認:長谷川）				全教員
⑬～⑭ 看護研究倫理について		人を対象とする看護研究倫理審査用紙 作成(チェックリスト含む)				全教員
⑮⑯ 看護研究倫理審査		研究倫理審査を実施し、修正後承諾を得て研究開始とするプロセスの実施 施設、研究対象者への説明と承諾後、データ収集開始				全教員
⑰～⑳ データ収集		一連の論文作成プロセスに沿ったデータ 分析と評価の実施				長谷川
㉑～㉒ 研究計画に基づいた分析と結果から考察の 推敲		論文形式に沿った論文作成				全教員
㉓～㉔ 論文作成		規定日までに提出された論文の審査				全教員
㉕～㉖ 論文審査		学内での発表会で発表する				全教員
㉗～㉘ 論文発表会						長谷川
						全教員

成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60 点以上を単位認定とする				
テスト： %	論文 80 %	発表： 20 %	実技試験： %	その他： %
使用テキスト：適宜、資料を配布する。			その他参考文献など：質的研究の進め方・まとめ方 (医歯薬出版)、質的研究 Step by Step(医学書 院)、質的研究と量的研究のエビデンスの統合(医 学書院)等	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 主体的、積極的に取り組み、研究プロセスを修得してください。 相談したいことがあれば可能な限り対応します。(必ずメールでアポイントしてください。)				